

中国産冷凍食品による薬物中毒事案の実態把握に関する調査
(中間報告)

平成20年7月

中国産冷凍食品による薬物中毒事案の実態把握に関する検討会

I はじめに

本年1月29日、東京都から厚生労働省に対し、兵庫県及び千葉県において、有機リン中毒の疑いがある事案が発生し、両県事案においては、患者すべてが発症直前に、JTフーズ(株)(東京都品川区)が中国から同一時期(平成19年11月)に輸入した同一製造者(河北省天洋食品工場)の冷凍餃子を喫食しており、警察の検査において患者の吐瀉物等から有機リン系薬物(メタミドホス)が検出されている旨の報告があった。

本事案を受け、厚生労働省としては、関係機関と連携し、被害の拡大防止、原因の究明及び再発の防止について、全力で取り組んできたところである。

今次薬物中毒事案については、これら有機リン系農薬の混入等の原因は未だ明らかとはなっていない状況であるが、今次事案により国民生活の根幹である食の安心・安全への信頼は大きく損なわれており、原因究明を待つことなく、今後同種の事案が発生した場合に備えることは急務である。

このため、今後の類似事案発生時の早期対応に資するため、今次事案において、確定患者及び相談・報告のあった事例についての詳細な分析と回収食品の検査結果等の情報収集を通じて、全体像の把握を行った。

II 検討の概要

1 目的

中国産冷凍食品による薬物中毒事案については、全国で10人の確定患者と、5千人を超える相談・報告事例(参考資料1)があったが、これらについて、詳細に分析を行うとともに、回収された食品の検査情報(参考資料2)を併せて考察を行うことは、今後の類似事案の発生予防や、発生した際の早期対応に資するものと考えられる。

そこで、食品による有機リン中毒の健康影響について知見を集積するとともに、確定患者に関する情報、報告・相談事例に関する情報、及び回収食品の検査状況に関する情報を収集し、検討を行うこととした。

2 検討方法

「中国産冷凍食品による薬物中毒事案の実態把握に関する検討会」(参考資料3)を設置し、検討した。

第1回検討会 平成20年4月10日(木)

第2回検討会 平成20年7月8日(火)

III 検討結果

1 中国産冷凍食品による薬物中毒事案の確定症例の概要

1) 調査目的

中国産冷凍食品による薬物中毒事案については、平成19年度末までに、全国で3家族 10 人の確定患者が報告された。

今後の類似事案の発生予防や、発生した際の早期対応に資することを目的に、確定された 10 人の患者について、詳細な分析を実施した。

2) 調査方法

10 名の確定患者を診断した医療機関(千葉市立青葉病院、千葉市立海浜病院、順天堂浦安病院、浦安市川市民病院、高砂市民病院、兵庫県災害医療センター)を訪問し、担当医等より状況を聴取した。

3) 調査内容

- (1) 10 名の患者の臨床所見及び治療内容
- (2) 臨床的特徴

4) 症例の概要

(1) 事例1

(ア) 来院までの経過

- ・18 時 30 分頃、大人1名、小児1名が夕食時に中国産冷凍ギョウザを喫食(味が変わったので半口程度)。
- ・30 分後に大人に上腹部痛、嘔吐(5 回)、下痢(3 回)出現。
- ・20 時頃、一次救急外来を受診。
- ・大人は、血圧 106/62mmHg、心拍 67 回/分、体温 34.5 度。強い腹部痛、著明な発汗、意識レベルの低下があり、二次救急施設へ転院。
- ・小児は 21 時頃から嘔吐があつたが、一次救急外来受診のみ(体温 36.4 度)で帰宅。

(イ) 来院時状況

- ・22 時頃、大人が二次救急を受診。
- ・血圧 123/81mmHg、体温 34.7 度。
- ・心窩部痛、腹部グル音亢進、嘔気、嘔吐、下痢、著明な発汗、四肢冷感、チアノーゼ、顔色不良あり。腹痛、嘔気など改善なく経過観察入院。

(ウ) 治療内容を含む退院までの経過

- ・急性胃腸炎、食中毒として治療実施。
- ・点滴(補液)、ブスコパン、プリンペランを投与。

- ・翌日退院。
- ・(入院しなかった小児は、一次救急外来にて、ナウゼリン坐薬を処方。)
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中ケトン体上昇、血中カリウム値低下、pO₂ 低下、pCO₂ 上昇 等
- ・コリンエステラーゼは測定せず。

(エ) 退院時及び退院後の状況

- ・退院時、軽度腹痛残存あり
- ・2月4日に勧奨受診。コリンエステラーゼ、肝機能、MRIなどの検査を実施。自覚症状を含め、異常所見なし。
- ・大人が小児に後遺症や晩発症状が出ないかとの不安が強いため、自治体によるメンタル面のフォローアップを実施。

(2) 事例2

(ア) 来院までの経過

- ・18時50分頃 大人2名、高校生1名が、夕食に中国産冷凍ギョウザを喫食。味がおかしいと感じたが高校生はそのまま12個、大人(男性)は2個食べ、大人(女性)は1個食べて吐き出した。
- ・食べた直後から、高校生には嘔吐、回転性のめまいが出現し、大人(女性)が付き添って救急搬送。
- ・高校生の搬送直後に、大人(男性)も同様の症状が出現し、救急搬送。
- ・その後、付き添って来院していた、大人(女性)も病院内で同様の症状が出現。

(イ) 来院時状況

① 高校生

- ・19時10分頃、意識レベルの低下、多量の発汗、嘔気・腹痛あり。血圧は正常。
- ・20時頃、意識レベル低下、筋攣縮、口腔分泌物あり。

② 大人(男性)

- ・19時35分頃、家人に支えられて歩行来院。
- ・多量の発汗、腹痛、嘔気、筋力低下あり。
- ・悪寒、湿性咳嗽。

③ 大人(女性)

- ・20 時頃、病院のトイレでしゃがみこんでいた。口のしびれ、嘔気、筋力低下あり。

(ウ) 治療内容を含む退院までの経過

①高校生

- ・胃洗浄を施行。酸素投与、昇圧剤、点滴。
- ・翌日、呼吸状態悪化、眼振あり。
- ・9 時、縮瞳を認める。コリンエステラーゼ低値。
- ・16 時前頃、PAM、FOY を投与 (硫酸アトロピンは投与なし)。CHDF 開始 (それまでほぼ無尿の状態だったとのこと)。
- ・翌々日、手のこわばり感を訴え、転院となった。
- ・主な検査異常：白血球数上昇、血糖値上昇、アミラーゼ上昇、AST、ALT、LDH 上昇、総ビリルビン上昇、PT 上昇、CRP 上昇 等
- ・転院後、呼吸・循環は安定しており、PAM および硫酸アトロピンは投与されていない。上腹部痛を中心とした腹部の疼痛・圧痛、CT で腸管浮腫と腹水貯留が認められた。絶飲食で経過観察。
- ・10 日後に退院し (この時点の CT で腹水消退、腸管浮腫改善)、前医の外来通院となった。

②大人(男性)

- ・胃洗浄を施行。嘔吐、下痢頻回。
- ・翌日、心拍数一時的に低下あり。意識レベル不安定で、朦朧としている。
- ・12 時頃、縮瞳に気づく。コリンエステラーゼ低値。
- ・PAM、FOY 投与 (硫酸アトロピンは投与なし)。
- ・主な検査異常：白血球数上昇、血糖値上昇、アミラーゼ上昇、AST、ALT、LDH 上昇、CRP 上昇 等
- ・翌々日転院。CTで膵臓の腫大、腹水を認める。
- ・6 日後、転院先から戻り、肝機能が落ち着くまで入院 (飲酒歴も長引いた要因か)。20 日後に退院。

③大人(女性)

- ・胃洗浄を施行。顔面紅潮、腹痛、嘔気、嘔吐 (頻回) あり。ブスコパン、プリンペランの投与。ペンダジン投与。
- ・翌日、腹痛持続。縮瞳はないが、コリンエステラーゼ低値。
- ・PAM 投与 (硫酸アトロピンは投与なし)。13 日後退院。

・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、CRP 上昇 等

(エ) 退院時及び退院後の状況

① 高校生

- ・退院時は完治。
- ・退院直後不安が強かったが、(現在は安定)。
- ・退院後、左上肢のしびれと背部痛を訴える(現在も継続)。

② 大人(男性)

- ・退院時は完治。
- ・退院後、背部痛を訴え、(現在も継続)。

③ 大人(女性)

- ・退院時は完治。
- ・退院後、左上肢のしびれを訴え、(現在も継続)。

(3) 事例3

(ア) 来院までの経過

- ・20 時過ぎ、大人 1 名、小児 4 名が、中国産冷凍ギョウザ等を夕食に喫食。
- ・20 時 30 分過ぎ、第四子、第三子、第二子、第一子の順に激しい腹痛、嘔吐、下痢を訴えた(当初親は無症状)。
- ・21 時 22 分、救急隊へ救急要請があり、21 時 32 分救急隊到着。
- ・22 時 10 分、大人が同乗し、小児 3 名が小児科を受診(長子是他院を受診し入院)。

(イ) 来院時状況

① 第四子

- ・体温 37.5 度、血圧低下(86mmHg/測定不能)、寒いと訴えあり。
- ・顔色不良、チアノーゼ、陥没呼吸。
- ・嘔気、嘔吐、グル音の亢進著明。
- ・喘鳴著明、呼気の延長著明。

② 第三子

- ・腹痛、嘔気、嘔吐、下痢、グル音亢進。

・小児科入院。

③第二子

- ・腹痛、嘔気、嘔吐、下痢、グル音亢進。
- ・小児科入院。

④第一子

- ・(翌日、家族と同じ病院へ転院し、内科入院。)

⑤大人

- ・顔色不良だったが、本人は車酔いだと認識。
- ・その後トイレで倒れているところを発見され、内科救急を受診し入院。

(ウ) 治療内容を含む退院までの経過

①第四子

- ・意識レベル低下、分泌物増多、血圧低下、努力性呼吸増強のためプロタノール持続吸入。気管挿管し、人工呼吸開始(入院 4 時間後)。
- ・眼球の浮腫、眼振がありグリセオール投与。
- ・翌日、酸素化改善し、尿が出始めるが、手足のけいれんが出現。縮腫に気づく。徐脈あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(+)
- ・全身管理目的で転院。
- ・転院後、胃洗浄(異臭なし)、ICU 管理。
- ・PAM(2 日間)、アトロピン(21 日間)投与。
- ・8 日後抜管、10 日後 ICU 退室。
- ・13 日後あたりから、夜間不穏、急性ストレス反応に改善がみられ、食欲が増加。25 日後に退院。
- ・主な検査異常
(最初の病院)白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下
(転院後)白血球数上昇、BUN 上昇、クレアチニン低下、アミラーゼ上昇、AST、LDH 上昇、CRP 上昇 等

②第三子

- ・絶食後、点滴。当初激しい腹痛を訴えていたが、明け方には軽減。
- ・翌朝、眼がみえいくいと異常を訴え。縮腫、徐脈あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(-)

- ・PAM(4日間)、アトロピン(16日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

③第二子

- ・絶食後、点滴。入院直後より良眠。
- ・翌朝、縮瞳に気づく。徐脈あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(+)
- ・PAM(4日間)、アトロピン(16日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

④ 第一子

- ・幻覚や興奮などの神経症状あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(+)
- ・PAM(8日間)、アトロピン(8日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

⑤ 大人

- ・幻覚や興奮などの神経症状あり。
- ・コリンエステラーゼ低値。尿有機リン簡易分析(-)
- ・PAM(8日間)、アトロピン(8日間)投与。
- ・24日後に退院。
- ・主な検査異常:白血球数上昇、血糖値上昇、血中カリウム値低下

(エ) 退院時及び退院後の状況

全員完治

5) 症例の特徴等

(1) コリンエステラーゼの回復が極めて速い

- ・農薬の経口摂取による自殺企図事例における有機リン中毒と比較して、極めて速やかにコリンエステラーゼ測定値が改善した。

(2) 1家族に腓炎様の症状あり

- ・3家族のうち1家族において、3症例中2例に検査値及びCT画像上、腓炎

を疑わせる所見があった。

- 文献的には有機リンにより腓炎様症状を呈することはあるが、軽症例では稀なことである。

(3) 臨床症状の消失

- 10症例のうち、長期入院した8例については、いずれも退院時には症状は消失(完治)している。
- また、外来のみであった1例、1日のみの入院であった1例についても、1か月余り後に勧奨受診した際には、症状は消失していた。
- 1家族3例について、退院後に上肢のしびれや背部痛等の症状が出現しているが、この新たな症状と有機リン中毒との関係は必ずしも明確でない。

2 都道府県からの相談・報告事例のまとめ

(1) 調査目的

中国産冷凍ギョウザによる健康被害が公表された日(1月30日)以降に都道府県等にあった相談・報告については、平成20年3月31日時点で有機リン中毒が確定した患者10例のほか、有機リン中毒が否定された事例数5915件(内医療機関受診有り 1044件)が都道府県等に報告されている(参考資料1)。これら有機リン中毒が否定された事例のうち医療機関受診有りの相談・報告例について取りまとめるとともに、更なる調査が必要な事例が含まれていないか検討することを目的とした。

(2) 調査方法

2月21日付けで、厚生労働省より、これまで厚生労働省に報告のあった「中国産冷凍ギョウザ等による健康被害を訴えている事例」のうち、有機リン中毒について「訴えはあるものの、臨床診断や検査結果等により否定された事例」等に関する都道府県等への相談・報告事例について、既存の相談受付記録(様式任意)について個人情報情報を消去した形で送付依頼、厚生労働省において集計した。

なお、有機リン中毒の確定には、神経症状などの有機リン中毒系農薬による中毒症状があること、血中のコリンエステラーゼ活性の低下が認められること、吐瀉物または食品等からメタミドホスの検出があることを要件としているが、検査非実施であっても、因果関係が明らかなものを含む10例については今回のまとめとは別に調査・分析を行っている。

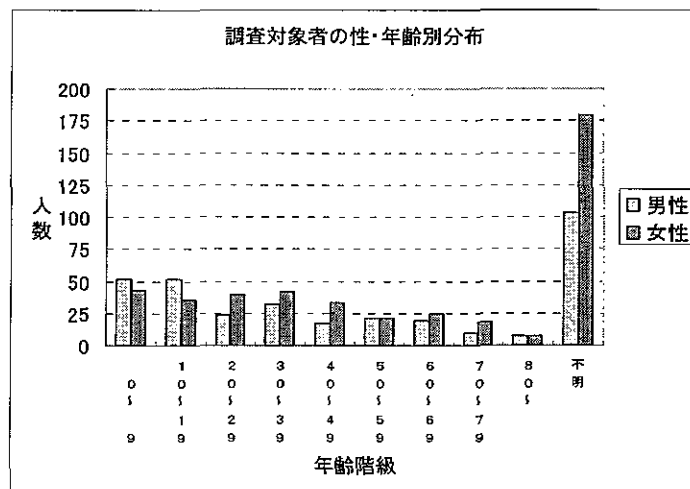
(3) 調査結果の概要

ア 分析対象者の属性

今回の分析対象となったのは、自治体で有機リン中毒が否定された事例のうち、医療機関受診有として報告のあった1,044件から報告された実人数として得られた1,086人分の情報である。

性別内訳は、男性337名(43.0%、不明を除く)、女性446名(57.0%、前同)、性別不明303名、平均年齢は32.9歳(男性 30.6歳、女性 35.3歳)であった。

年齢階級	男性	女性	不明	合計
0～9	52	43	10	105
10～19	52	35	6	93
20～29	24	40	1	65
30～39	32	42	3	77
40～49	17	33	1	51
50～59	21	22	3	46
60～69	19	25	6	50
70～79	10	18	2	30
80～	7	8	0	15
不明	103	180	271	554
計	337	446	303	1086



なお、今回の調査では、相談者を特定できるような個人情報や消去して都道府県から国に情報を送付しているが、81.1%にあたる 881 件については、都道府県等では、相談者等に必要に応じて連絡を取ることが出来るような手段を確保しているとの報告があった。

都道府県→相談者間の連絡手段	実数	割合
有	881	81.1%
無	54	5.0%
不明	151	13.9%
	1,086	100.0%

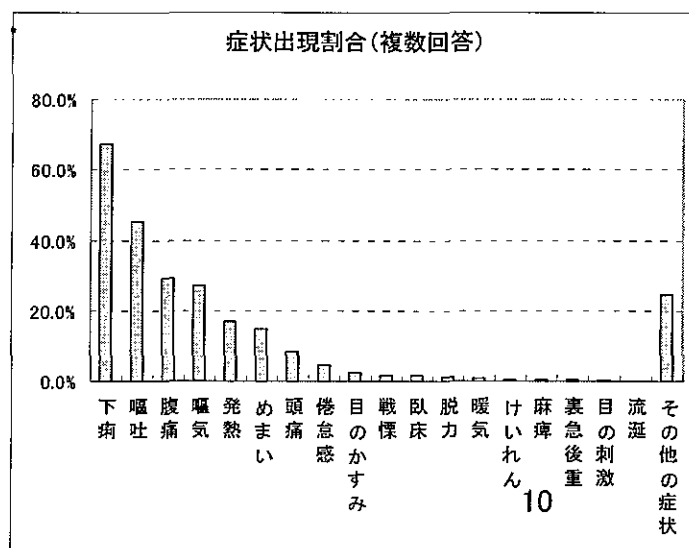
イ 原因食品について

今回の症状の原因食品としては、1,086 件中 1,017 件(93.6%)について記載があった。原因食品として報告が多かったものは、「CO・OP 手作り餃子」(246 件 22.7%)、「中華 de ごちそうひとくち餃子」(206 件 20.0%)、「手作り餃子」(97 件、8.9%)、「ひとくち餃子」(53 件 4.9%)、「手包みひとくち餃子」(51 件、4.7%) の順であった。(なお、原因食品名は、必ずしも商品名を特定できる形で報告されているわけではないため、たとえば「手作り餃子」の中には、「CO・OP 手作り餃子」が含まれている可能性がある。)

原因食品名	合計	割合
CO・OP 手作り餃子	245	22.6%
複数(CO・OP 手作り餃子含む)	1	0.1%
中華 de ごちそうひとくち餃子	204	18.8%
複数(中華 de ごちそうひとくち餃子含む)	2	0.2%
CO・OP 手包み餃子 または 中華 de ごちそうひとくち餃子	1	0.1%
手作り餃子	97	8.9%
ひとくち餃子	53	4.9%
手包みひとくち餃子	51	4.7%
お弁当大人気！豚肉のごぼう巻き	30	2.8%
お弁当大人気！2種のソースのロールキャベツ	27	2.5%
お弁当大人気！豚肉の3色野菜巻き	22	2.0%
CO・OP 本場中国肉餃子	21	1.9%
その他	245	22.6%
複数	18	1.7%
(空白)	69	6.4%
総計	1086	100.0%

ウ 出現した症状について

症状(複数回答可)として報告が多かったのは、下痢(729名 67.1%)、嘔吐(490名 45.1%)、腹痛(318名 29.3%)、嘔気(292名 26.9%)の順であった。



出現症状(複数回答)	有症者数	割合
下痢	729	67.1%
嘔吐	490	45.1%
腹痛	318	29.3%
嘔気	292	26.9%
発熱	186	17.1%
めまい	161	14.8%
頭痛	94	8.7%
倦怠感	51	4.7%
目のかすみ	26	2.4%
戦慄	19	1.7%
臥床	19	1.7%
脱力	16	1.5%
暖気	7	0.6%
けいれん	5	0.5%
麻痺	5	0.5%
裏急後重	3	0.3%
目の刺激	4	0.4%
流涎	0	0.0%
その他の症状	267	24.6%
全体	1,086	100.0%

エ 診断の根拠

医療機関が有機リン中毒を否定した理由については、相談記録には42件に記載あった。これらの中には、「物質検出せず」(17件)、「コリンエステラーゼ活性によるもの」(17件)、「症状合致せず」(9件)、「縮瞳なし」(3件)、「他疾患あり」(3件)、「食品摂取なし」(1件)となっていた。(複数回答)

オ 診断名について

分析対象のうち、診断名について何らかの記載のあるもの(不明・異常なしを含む)は、全体の35.5%(386件)であった。

診断名で多かったものは、胃腸炎(92件)、風邪(78件)、感染性胃腸炎(28件)であった。

入院の有無別診断名について

診断名	入院有	入院無	不明	計
胃腸炎	8	28	56	92
風邪	1	24	54	79
感染性胃腸炎	2	7	19	28
異常なし		7	8	15
嘔吐下痢症		2	7	9
ノロウイルス	1	1	6	8
インフルエンザ		3	3	6
食あたり			5	5
有機リン中毒を否定	2	1	2	5
餃子喫食との関連を否定	1	1	2	4
食中毒を否定		1	2	3
蕁麻疹		3		3
逆流性食道炎		1	2	3
感染症		1	1	2
下痢症		2		2
食中毒疑い			2	2
めまい		2		2
その他診断名	5	12	23	40
急性有機リン中毒			1	1
風邪、有機リン中毒の可能性あり			1	1
農薬中毒疑い		2		2
中毒の疑い			1	1
過敏性下痢症候群の疑いがあるが、薬物中毒も否定はできない。			1	1
農薬の関与も否定できない			1	1
不明	1	22	30	53
その他(診断名以外の記載等)		7	11	18
記載なし	17	196	487	700
合計	38	323	725	1,086

なお、診断名の中には、「急性有機リン中毒」(1件)、「中毒の疑い」(1件)、「過敏性下痢症候群の疑いがあるが、薬物中毒も否定はできない」(1件)、「農薬中毒疑い」(2件)、「農薬の関与も否定できない」(1件)、「風邪、有機リン中毒の可能性あり」(1件)が含まれているが、これらについての詳細は以下の通りであり、症状、血液検査(含むコリンエステラーゼ活性)結果、摂取食品検査等により、行政上は、有機リン中毒が否定されている。

ID	都道府県	性別	年齢	診断名	下痢	嘔気	嘔吐	頭痛	倦怠感	腹痛	目の刺激	めまい	原因食品名	備考
10163	群馬県			急性有機リン中毒		○	○	○					味の素冷凍ギョウザ	コリンエステラーゼ活性 正常～高値
10215	東京都			(中毒の疑い)									JT ごぼう巻き(6個入り)	発疹、立ちくらみ、夜中にのどがつまる、舌のしびれといった症状あり。発疹、(立ちくらみ)は現在も継続中。ステロイド外用剤使用。購入先:***** 購入日時:1/23
10253	長野県	男	62	過敏性下痢症候群の疑いがあるが、薬物中毒も否定はできない。	○								中華deごちそうひとくち餃子	長野県環境保全研究所で残品を検査したところ、メタミドホス及びジクロロホスは不検出であった。当該食品賞味期限2008/12/20。
10367	福岡県	男	32	農薬中毒疑い	○		○	○			○		CO・OP 手作り餃子	血液検査の結果、薬物中毒を疑わせる値は出ていない。
10368	福岡県	女	33	農薬中毒疑い	○						○		CO・OP 手作り餃子	血液検査の結果、薬物中毒を疑わせる値は出ていない。
10877	葛飾区	女		農薬の関与も否定できない	○	○					○		中国産冷凍餃子	当該物質検出せず、有機リン中毒を否定
10719	大阪府			風邪、有機リン中毒の可能性あり		○	○			○		○	中華deごちそうひとくち餃子	吐き気、めまいは1週間ぐらい続いた。吐き気は現在も続いている。心電図 異常なし、血液検査 血漿コリンエステラーゼ活性正常(539)、投薬無し。尿検査実施。吐き気止め(プリンペラン)を処方。診察時、縮瞳等の症状なし。既往歴:メニエール病。残品検査:メタミドホス検出されず。

カ 入院事例

入院事例は 38 例であった。このうち、28 件については診断名があり、(急性・感染性)胃腸炎(11件)、出血性胃炎(1件)、急性腸炎(1件)、急性肝炎(1件)、結腸の炎症(1件)、風邪(1件)、ネフローゼ疑い(1件)、ノロウイルス(1件)、慢性胃炎か過敏性腸症候群(1件)、十二指腸潰瘍(1件)、めまい症(1件)、メニエール症候群(1件)、中毒の可能性低い～考えにくい(2件)、臨床症状から餃子との因果関係を否定(1件)、てんかんの発作(1件)、敗血症ショック(1件)、不明(1件)となっていた。不明1件及び診断名について明らかではない10件の症例の詳細は以下の通りである。

(ア) 診断名不明

ID	都道府県	性別	年齢	原因食品名	下痢	嘔気	嘔吐	倦怠感	腹痛	目の刺激	めまい	診断名	備考
10117	茨城県	男		JTフーズ 手作り餃子								不明	本人と子供(7歳)が焼いて食べたが、本人のみ突然、意識不明になった。病院は、翌日に退院した。当該食品の製造年月日は不明で、2007/11/09に*****で購入。

(イ) 診断名が明らかでないもの

ID	都道府県	性別	年齢	原因食品名	下痢	嘔気	嘔吐	倦怠感	腹痛	めまい	入院期間	備考
10084	山形県		41	手包みひとくち餃子と他社の冷凍餃子						○		家族内発症者症状にばらつき。餃子をたくさん食べた息子の症状が嘔吐のみ。めまいの症状を呈する本人は、虫垂炎手術後1月4日から軽度めまい。訴えている3人は餃子を食べた翌日に、症状を示している。以上のことから、JT餃子事件との関連性は薄いと考えられた。本人は、平成19年12月30日に虫垂炎の手術を受け、平成20年1月4日よりめまい感を感じていたが、1月17日に感じためまいは従前のものより激しかったとのこと。 購入店:****か****
10096	福島県	女	27	CO・OP 手作り餃子	○				○		2	賞味期限 2008. 5. 10 メタミドホス、ジクロロホス不検出
10097	福島県	男	77	JTフーズ 中華deごちそうひとくち餃子	○							医師の診断から餃子が原因ではないと判断された 購入店:****
10161	群馬県	女		CO・OP 手作り餃子	○	○			○		2	****で購入
10216	東京都	女		ミニロールキャベツ 都デリカ ロールキャベツ ニテロ えだまめ	○						10	1月13日に家族3人で喫食したところ、喫食直後に本人のみ左顔面が麻痺し、下痢となった。他二人は無症状。喫食したものは自主回収対象食品ではなかったため返品できなかった。2月3日に救急車を呼び、***の***病院に搬入され、10日間入院。現在は別の病院で角膜損傷の治療と左顔面麻痺のリハビリをしているらしい。
10326	鳥取県	女	81	ハイキクトレーディング小籠包	○						4	その他症状は手足の震え、救急車 アトロピン注射でおさまる 可 検物は同日に購入した同製品 メタミドホス、ジクロロホス不検出
10409	大分県			CO・OP 手作り餃子	○							8月購入。喫食した子供と孫が嘔吐・下痢症状を呈したが、いつ喫食し、いつから有症なのかは不明。
10838	大田区			あけぼの冷凍食品 あおり炒めの焼肉	○	○	○			○		賞味期限 08. 12. 20 購入先 **** 購入日 1. 20 10-11時
10869	練馬区	女		JTフーズひとくち餃子								購入先 **** 購入日 1.25
11112	福岡県	女	35	COOP手作り餃子	○	○			○		7	

これら事例については、調査票の再確認、さらには必要に応じて都道府県を通じて再確認を行ったが明らかな有機リン中毒を疑わせる所見を得ることは出来なかった。

(4) 結論

都道府県の既存の相談受付記録に基づき、有機リン中毒を否定されている事例のうち、医療機関受診ありの1,086件について必要に応じて都道府県への照会を行いながら、再確認を行った。

これまでの確認が出来た範囲においては、有機リン中毒を否定するに至る判断、各都道府県等の実施した措置については現時点ではおおむね妥当なものであったことが確認された。

有機リン中毒については、臨床的には、一度症状が消失したら、その後有機リン中毒と同じ症状が出現したとしても別の原因によるものと考えられるとされているが、本事案に関係して、都道府県等に相談・報告を実施した住民、医療機関等は、万一必要が生じた場合には、引き続き都道府県等に報告を行うことにより、今後のフォローアップにつなげることとすべきである。また、国は引き続き、必要に応じた国民への情報提供や、都道府県等への技術的支援を継続することが重要である。

3 中国産冷凍食品による食中毒事案に関する回収食品の検査状況の概要

(1) 調査目的

回収された食品の検査状況に関する詳細な分析を実施し、今後の類似事案の発生予防や、発生した際の早期対応に資する。

(2) 調査方法

3月4日付け通知「食品による薬物中毒事案の実態把握に関する調査について」に基づいた都道府県等からの報告を集計するとともに、ジェーティーフーズ(株)及び日本生協連から検査状況を聴取し、調査を実施した。

(3) 調査概要

1) コープ東北ネット、みやぎ生協、コープあいつ薬品異臭苦情事案関連

対象検体	ロット	自治体	事業者	農薬検出数
COOP 手作り餃子	賞味期限 2008.6.3	28	34	3 農薬、3 検体 ジクロルリス(1) (全量 0.01 ヲット ppm, 皮 110ppm, 具 0.42ppm) パラチオン(1) 0.01ppm チミトリス(1) 0.01ppm

2) 千葉県千葉市、千葉県市川市、兵庫県高砂市事案関連

対象検体	ロット	自治体	事業者	農薬検出数 注) () 内は検出検体数
中華 de ごちそう一口餃子	賞味期限 2009.1.1	15	1,231	0
COOP 手作り餃子	賞味期限 2008.10.20	109	268	0
中華 de ごちそう一口餃子	賞味期限 2009.1.1 以外	795	1,077	4 農薬、13 検体 チミトリス (20051221(1) 0.01ppm) クロルリス (2008.10.7(2), 2008.10.9(1), 2008.11.5(1) 0.01-0.02ppm) ピリタニル (2007.4.12(1), 2009.3.3(1) 0.01-0.02ppm) プロシトソ (2009.2.23(3), 2009.2.24(1), 2009.3.16(1), 不明(1) 0.02-0.04ppm)
COOP 手作り餃子	賞味期限 2008.10.20, 2008.6.3 以外	376	760	3 農薬、34 検体 チミトリス (2008.9.8(32) 0.01~0.08ppm) ジクロルリス (2008.7.22(1) 0.01ppm) プロシトソ (2008.4.6(1) 0.02ppm)
上記以外のすべての の製品		459	765	1 農薬、3 検体 チミトリス 餃子フライ(3) (0.01, 0.04, 0.10ppm)
1) 及び 2) の合計		1,782	4,135	5 農薬、49 検体

3) 中華 de ごちそう一口餃子及び COOP 手作り餃子の回収状況・検査状況

(JT 及び生活協同組合からの聴取) 6月30日現在(輸入袋数:平成19年1月1日~平成20年1月30日)

対象検体	ロット	輸入袋数	回収袋数	検査袋数	農薬検出数
中華 de ごちそう一口餃子	賞味期限 2009.1.1	11,424	1,428	2****	0***
COOP 手作り餃子	賞味期限 2008.10.20	6,816	1,310	268	0*
COOP 手作り餃子	賞味期限 2008.6.3	8,826	119	33	0
中華 de ごちそう一口餃子	賞味期限 2009.1.1 以外	3,318,264	187,398	1,077	0
COOP 手作り餃子	賞味期限 2008.10.20, 2008.6.3 以外	611,772	32,908	571	0

県警の発表

※COOP 手作り餃子 2008/10/20

①平成20年3月13日 千葉県警公表(市川市事案:被害者が吐き出した餃子)

マトリクス: COOP 手作り餃子 2008/10/20 皮 1g 中 約 3.58mg、具 1g 中 約 3.16mg

②平成20年3月31日 千葉県警公表(千葉市事案:被害者宅に残された未調理餃子等)

マトリクス: COOP 手作り餃子 2008/10/20 皮 1g 中 約 17.68mg、具 1g 中 約 19.29mg

③平成20年5月15日 千葉県警察公表(市川市、千葉市事案の餃子等)

マトリクス: COOP 手作り餃子 2008/10/20 皮 1g 中 約 31.13mg-0.04mg、具 1g 中 約 16.62mg-0.03mg

※※中華 de ごちそうひとくち餃子 2009/1/1

④平成20年5月29日 兵庫県警察公表(高砂事案:被害者が食べた餃子のトレーに付着していた餃子の具片)マトリクス: 中華 de ごちそうひとくち餃子 2009/1/1 具 1g 中 約 13.2mg

※※※1,428 袋中、1,229 袋については、警察の依頼を受け回収した袋のみ検査を実施

IV まとめ

1 診断が確定した事例への対応

- 今次薬物中毒事案で、確定事例として届けられた 10 例に関し、患者が経時的にどのような経過をたどったかについて、医療機関、自治体等から聞き取り調査を実施するとともに、今後の当該患者への対応について検討を行った。
- ほとんどの症例で、来院時から普通の食中毒とは違うと考えられるような強い症状を呈するとともに、原因物質の喫食から症状発現までの時間が短かった。また、消化器症状が中心であったため、他の消化器系の疾患との鑑別に時間をあてる程度要したものの、極めて速やかに症状が改善しているのが特徴的であった。これらのことから、各医療機関が早期に診断が出来るよう薬物中毒の専門家・機関に早期に問い合わせをすることが重要であり、かつ、早期に適切な治療を開始出来るようにすることが必要であると考えられる。このためには、食中毒や薬物中毒についての基礎的な事項について、行政が医師、医療機関等に周知すべきと考えられる。また、日本中毒情報センターとの連携を密にすることが必要である。
- 入院を要しなかった一例及び翌日に退院した一例(両者は同一家族)を除き、退院時には、症状は消失した。また、症状消失を確認できなかった一家族も、2月に行った確認のための診察時には症状は消失していた。一方で、同一家族の3例で、退院後にしびれや背部痛が出現し、1例は不安等を感じている事例もあった。
- 臨床的には、有機リン中毒と考えられる症状が一度消失したのであれば、その後と同じような症状や有機リン中毒で起こりうる別の症状が出現したとしても、有機リンではない別の原因によるものと考えることが合理的であり、現在、患者に対して診察等を行っている医療機関等が、患者を安心させるよう配慮することが、重要である。
- よって、現時点において有機リン中毒に関して前方視的な調査を行う必要性は極めて小さいと考えられる。ただし、今後新たな科学的知見が生じ、後方視的な研究が必要となった場合は、当該患者等に説明を行った上で、調査を実施すべきであると考えられる。

2 相談・報告事例の検証

- 都道府県の既存の相談受付記録に基づき、有機リン中毒を否定されている事例のうち、医療機関受診ありの 1,086 件について必要に応じて都道府県への照会を行いながら、再確認を行った。
- 必ずしも必要な情報が全て収集できたわけではないが、これまで確認が出来た範囲においては、相談・報告のあった医療機関受診事例の中から、既に確定事